

事業説明会

2025年度決算と次期中期経営計画（2026-2028）の概要

2026年5月21日

代表取締役社長 角谷 博樹

目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

会社概要

社名	日本化学産業株式会社
本店所在地	東京都台東区東上野四丁目8番1号
創業	1939年（昭和14年）8月
資本金	1,034百万円
事業内容	工業薬品・成型加工品製造販売
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード（4094）
決算/単元株	3月末／100株
代表者名	代表取締役社長 角谷博樹（かどや ひろき）
従業員数	454名（2026年3月31日現在・連結）



会社概要

金属の可能性を追求し、未来を拓く。

薬品部門



電子部品材料



電池材料



金属資源
の活用

建材部門



防火通気見切縁



外装製品



エクステリア製品

売上構成(2025年度実績)

薬品 : 86%

建材 : 14%

キーハイライト

中期経営計画の (2023-2025) 達成状況

- 車載用二次電池リサイクル事業 パイロットプラント完成
実証試験開始
- 営業利益34億円（2025年度）

次中期経営計画 (2026-2028) の主要施策

- リサイクル技術をテコに新規事業の創出に注力
- SIAM NKS社（タイ現地法人）を軸に、海外市場への展開を強化
- 設備・研究開発・人財に対し、積極的な投資を継続

数値目標 株主還元方針

- 正極材製造受託の終了、減価償却費増等により、利益は一時的に減少するものの、中期経営計画最終年度（2028年度）の営業利益は27億円を計画
- 株主還元方針（DOE4%+株主優待）は継続

目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

主な目標 2030年度ありたい姿

- オンリーワンの化学薬品事業
- 先進的金属材料リサイクル事業
- 先端の新素材事業
- 住宅建材・産業用金属加工分野への新たな価値の提供
- 人的資本の強化

成果

● リサイクル技術の展開

二次電池リサイクルの実証にむけ、パイロットプラントが完成。車載電池廃材からの有価物回収事業開発が始動

● 新製品上市

(薬品事業) PFASフリーめっき薬品等
(建材事業) 非防火地域向け見切等

● 働き方改革

労働集約型から知識集約型への移行
(階層別研修の充実、人事評価制度改革、役員による幹部の教育等)

● 資本コストや株価を意識した経営の推進

PBR (0.45→0.91*) *2026年3月末時点
個人株主数大幅増加

● SIAM NKS社 (タイ現法) 業容伸長

事業環境の変化と課題

NCA製造受託終了
半導体・電子材料を中心とする
需要分野の拡大
レアメタルリサイクルの国策化
一部薬品製品のコモディティ化

- 顧客ニーズの掘り起こしとソリューション提供、成長分野への取り組み強化による新たな薬品事業展開の加速

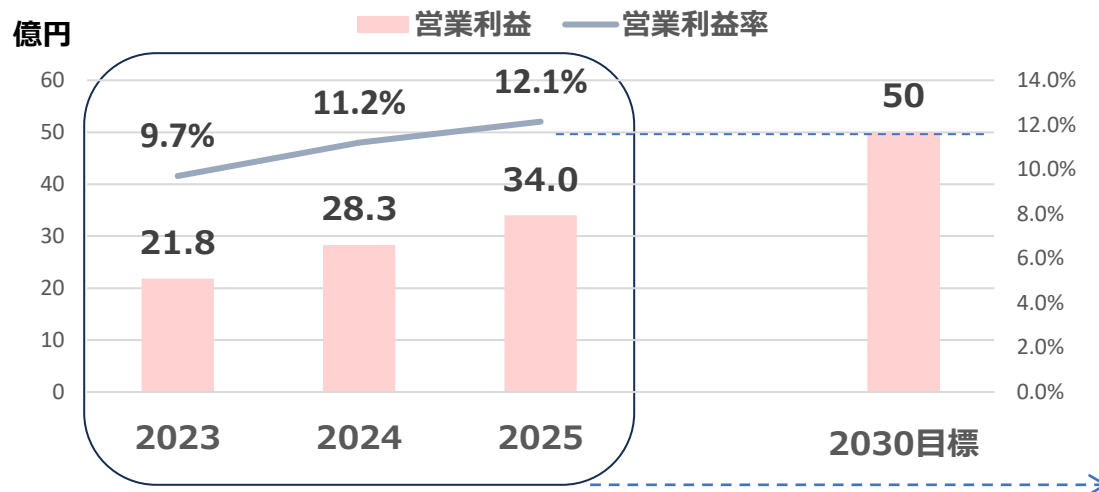
新規住宅着工戸数の減少

- 建材分野新製品の継続的上市

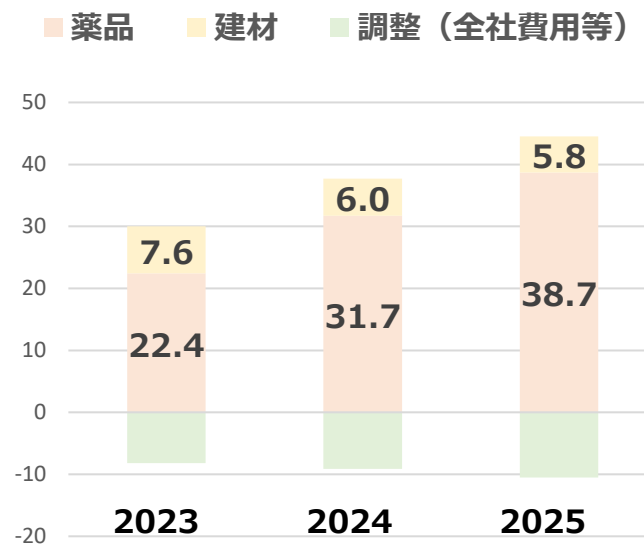
資本効率の一層の向上

- 手持ちキャッシュの積極的活用

全社営業利益

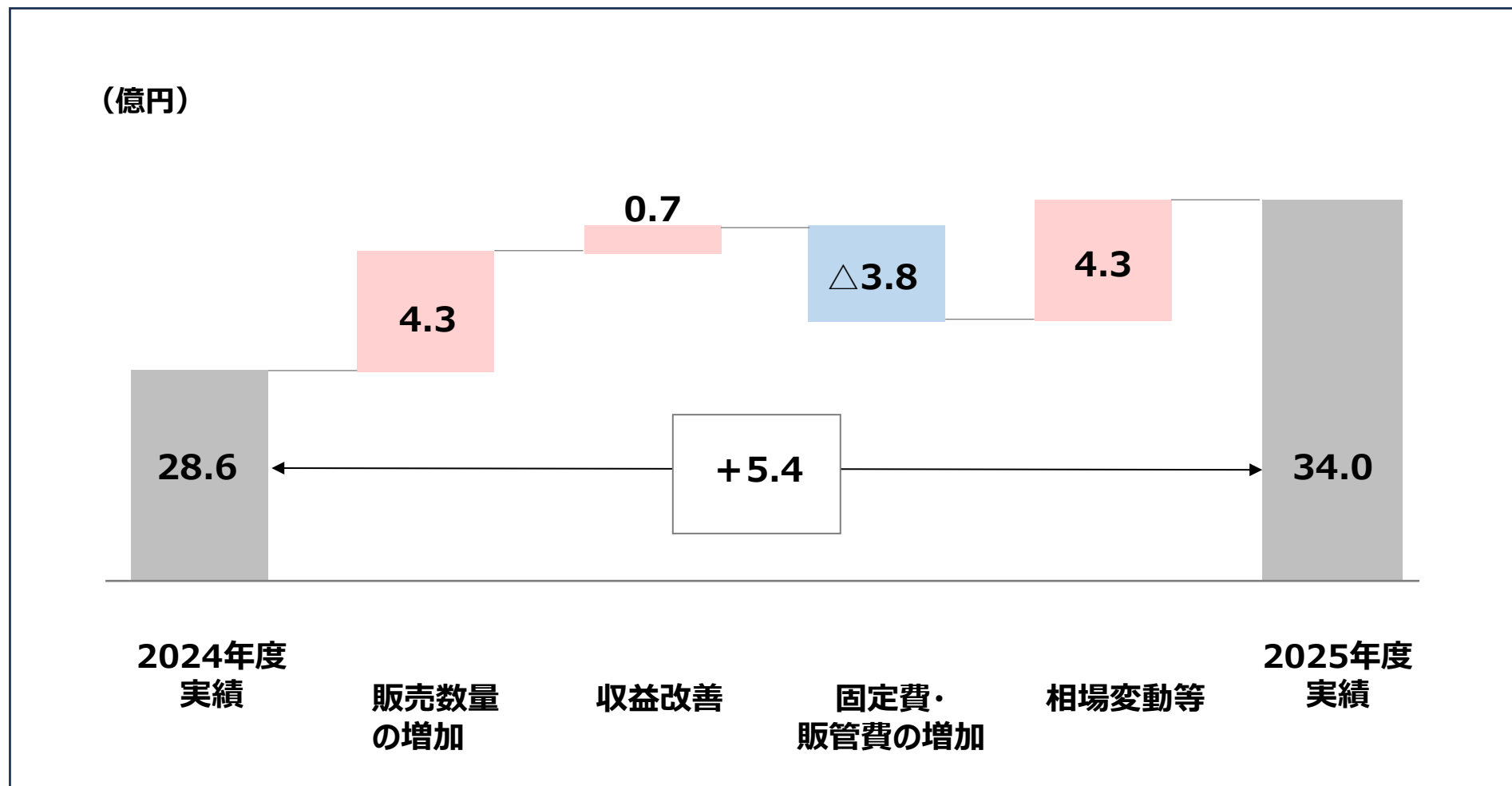


セグメント別営業利益



* 2025中期期間では営業利益の数値目標を設定していない

	2025年度実績	2030年度目標
■ 営業利益	34.0億円	50億円
■ 営業利益率	12.1%	12%以上
■ EBITDAマージン	16.1%	17%以上
■ ROE	4.7%	8%以上



目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

**今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性**

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

株主還元とキャッシュアロケーション

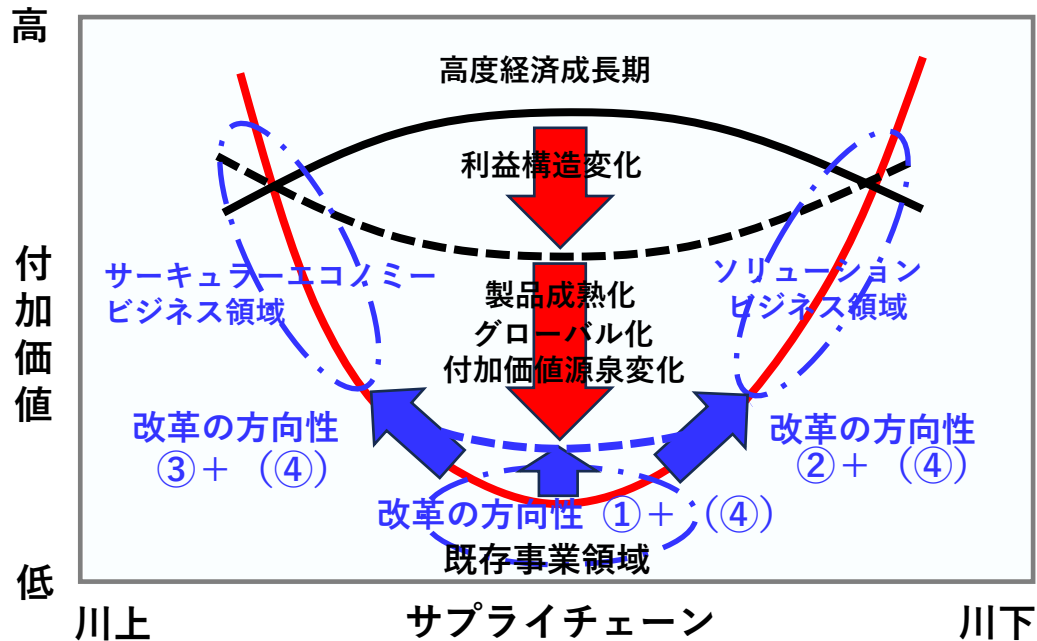
09

ESG、脱炭素への取り組み

3. 事業環境予測と当社の成長機会

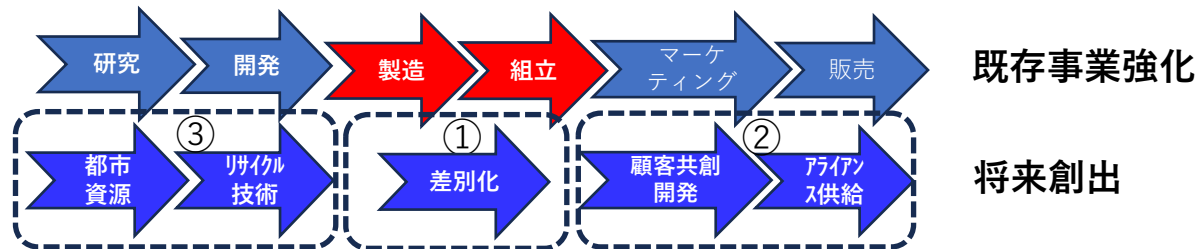
	長期（～2035）	当社の成長機会
世界	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの爆発的な普及 ・脱炭素への強いニーズ、環境規制の強化 ・重要鉱物（レアメタル、レアアース）が資源安全保障の主役に ・製品機能、ビジネスモデル差別化が利益の源泉 ・ASEAN、グローバルサウス諸国が経済の急速な発展 ・インフレの亢進と資源価格の上昇 ・不安定さを増す地政学的リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素に繋がる、機能性材料、新電池材料等のニーズ拡大 ・ベトナム、インドおよび東南アジアの急速な経済成長 ・レアメタル等のリサイクル市場の拡大 ・AIを支える半導体および周辺電子部品市場市場への主体的事業展開 ・環境対応製品、プロセスニーズ
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化の加速（一層の働き手不足） ・気候変動の激甚化 ・循環型経済への移行の加速 	<ul style="list-style-type: none"> ・レアメタル、レアアースのリサイクル、自給率向上（サーキュラーエコノミー）の国策化 ・防災関連インフラの整備 ・建設現場における省施工ニーズの一層の高まり

3. 当社事業再生の方向性



5つの準備

- ① 既存製品群の特長を、差別化を通じて更に強みに変える既存事業再生
- ② コンベンショナルな粗原料材料ビジネスから顧客共創材料ソリューションビジネスへの転換
- ③ リサイクル技術を核とした重層的サーキュラーエコノミー事業展開
- ④ 成長市場へリンクする主体的材料事業の展開
- ⑤ 将来を創出する人的資本の強化、働き方改革



目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

**当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針**

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

事業を支えるコア技術

<p>● 薬品事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○レアメタルのリサイクル技術 ○金属化合物の合成・高度制御・精製技術 ○長年にわたって培ってきた電池材料技術
<p>● 建材事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○金属材料の成形・加工技術（ロール・プレス）
<p>● 薬品・建材共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小ロット多品種対応力 ○顧客要求対応力 ○ニッチトップ製品

顧客との共創で成長市場へリンクする材料リユースンビジネス

- 成長市場で顧客を技術で支える、高度な機能性商品の開発・提供
- 顧客と共創する「カスタマイズ素材」+「ソリューション」で、脱炭素などの社会的課題を解決

当社薬品の主な用途



4. 2028中期経営計画の基本方針

2030年目標の達成に向け、育成強化の期間

- 既存事業の特長を強みに変える、**差別化戦略の継続、強化**
- 強みとするレアメタルのリサイクル技術を核に、**新規事業を創出**
- SIAM NKS社を軸に、**海外市場への展開を強化**
- 薬品・建材とも「顧客が望む高機能なカスタム品を共創」することで、
次代の主力商品の開発を加速
- 上記の実現のための、**積極的な投資（設備・研究開発・人財）**
投資資金はバランスシートからの捻出を基本とし、必要に応じ借入も視野
- M&A、アライアンスについても積極的に検討
- **株主還元は現行水準を継続（DOE4% + 株主優待）**

目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

**2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成**

06

数値目標

07

成長投資

08

株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

5. 2028中期経営計画の主要施策1

リサイクル技術の中核とする事業展開の一層の強化

原料回収・精製・材料化に関する長年磨き上げてきた技術基盤を活かし、顧客との共創を通じて高機能材料の開発を加速するとともに、資源循環分野での新たな成長機会を取り込む。

当社の顧客
(半導体、プリント基板、電子部品・車載電池メーカー)

酸化第二銅DCや二次電池材料等の
先端機能材料としてリサイクル

埼玉工場・大和工場・
福島工場・SIAM NKS

一般産業分野（多様な排出元）
レアメタルを含む多様な廃材や廃液

当社のリサイクル技術

- 無機・有機不純物を除去する分離・精製技術
- 再生原料を鉱山由来原料と同様の品質・性能へ高める材料化技術
- 多様な廃材に対応してきた知見を活かした、柔軟なプロセス設計力

5. 2028中期経営計画の主要施策1

施策の背景 (1) 当社製品の需要分野が急速に拡大

AIの爆発的な普及や、電子材料の高機能化等により、銅、ニッケル、コバルト等について、機能性材料の需要が急速に拡大

顧客と共創し、対応する当社製品（開発中を含む）

●銅系化合物

AI向け半導体（パッケージ工程）、EV非接触充電

●ニッケル系化合物

AI向け半導体（パッケージ工程）、
MLCC（積層コンデンサ）、PFASフリーめっき薬

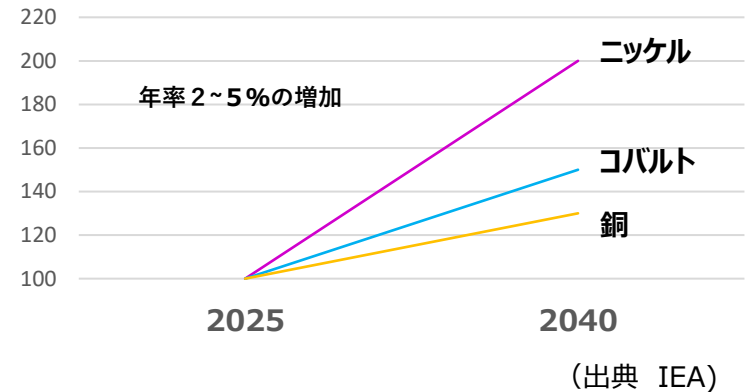
●錫系化合物

ナノ連珠セラミックス（燃料電池向け触媒担体）

●その他化合物

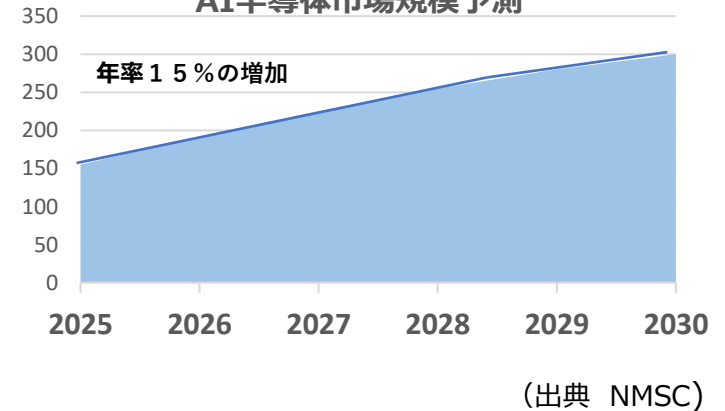
ペロブスカイト太陽電池素材

主要非鉄製品の需要予測（2025=100）



単位：10億ドル

AI半導体市場規模予測



5. 2028中期経営計画の主要施策1

施策の背景(2) 資源安全保障とレアメタルリサイクルの国策化

近年の地政学的リスクの高まりとともに、エネルギー資源（原油・ガス）に加えて、先端工業製品の製造に不可欠なレアメタル、レアアースの確保が国家レベルの政策課題に浮上*1

- そのため、いわゆる「都市鉱山」からの金属資源リサイクルの重要性が一段と高まっている
- EUでは、使用済み電池からのリサイクル原料の使用比率について、既に法制化*2

*1 経済安全保障推進法
(2022年5月公布、段階的に施行)

レアメタルは「特定重要物資」の筆頭格として位置づけられており、国内に精錬工場を建設、リサイクル設備を導入する企業に対し、国が補助金を拠出

*1 循環経済行動計画
(2026年4月 循環経済に関する関係閣僚会議)

重要鉱物・プラスチック再生に官民で1兆円投入

*2 欧州電池規則 リサイクル原料使用比率

	Co(コバルト)	Pb(鉛)	Li(リチウム)	Ni(ニッケル)
2031年8月18日以降	16%	85%	6%	6%
2036年8月18日以降	26%	85%	12%	15%

5. 2028中期経営計画の主要施策1

車載用二次電池のリサイクル

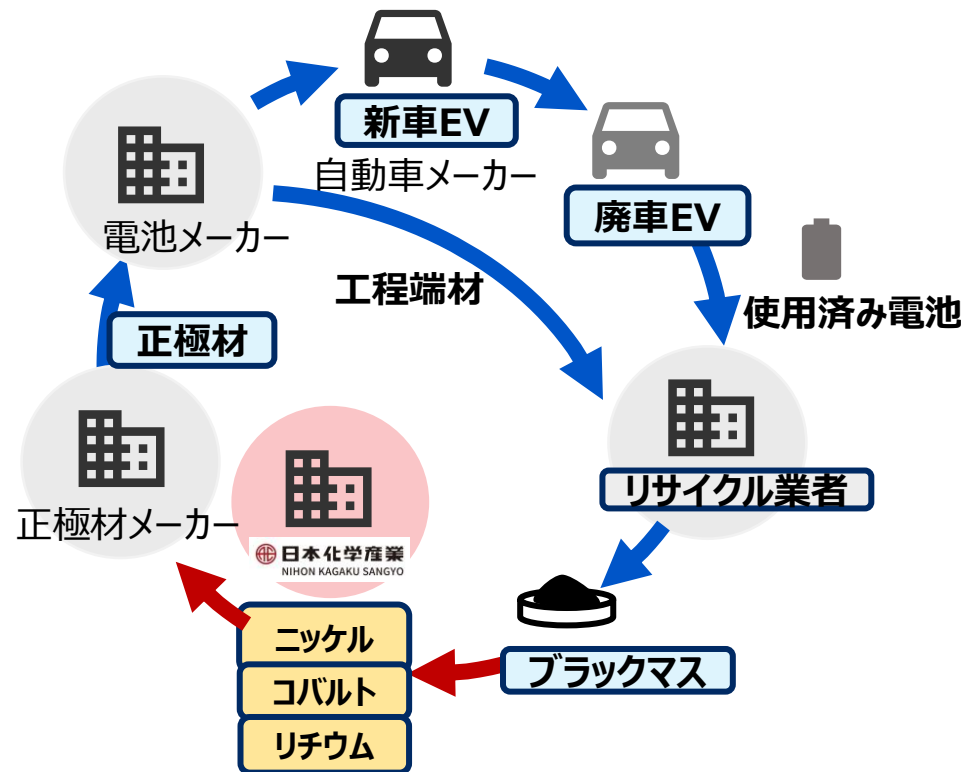
● 二次電池リサイクルへの取り組み

当社は、これまで培ってきた分離・精製技術や金属資源の活用・リサイクル技術を活かし、二次電池の工程端材や使用済み電池由来のブラックマスから、ニッケル、コバルト、リチウムなどの有用金属*を回収。回収金属を電池材料原料として再利用することで、資源循環と脱炭素への貢献をめざしている。

● パイロットプラント（いわきテクノロジーセンター）始動

ラボ技術の中規模実証と商業化に向けた設計データ取得を目的に、福島県いわき市にパイロットプラントを建設。2026年4月より稼働を開始し、今後は技術実証とプロセス改善を通じて、商業化に向けたデータ蓄積を図る。

* 廃ニッケル水素電池からのニッケル回収に加え、レアアース回収技術の開発にも取り組み中



5. 2028中期経営計画の主要施策1

車載用二次電池のリサイクル（パイロットプラント始動）

NIHON KAGAKU SANGYO

「いわきテクノロジーセンター」竣工

～先進的金属リサイクル事業の確立に向けた本格実証を開始～

日本化学産業株式会社（社長・角谷 博樹）は、いわき四倉中核工業団地（福島県いわき市）において、2024年春より建設を進めてまいりました、「いわきテクノロジーセンター」がこのたび完成したことから、4月9日に竣工式を執り行いました。本パイロットプラントは、経済産業省から「重要鉱物の供給確保計画」の認定を受けて、当社の先進的金属リサイクル事業の技術開発に向けたテクノロジーセンターとして、建設したものです。



テープカット



社長挨拶

5. 2028中期経営計画の主要施策2

タイの現地法人を拠点とした海外展開の強化

- ・当社は2000年6月、タイに子会社SIAM NKS社を設立し、酸化銅DC、無電解ニッケルめっき液などを現地で生産し、タイ、ベトナムおよびASEAN地域での事業を強化
- ・近年は特にチャイナプラスワンの動きの下、アジア各国への電子部品関係の工場進出が顕著であるため、需要を捕え、SIAM NKS社の業績も伸長
- ・今後、同社における生産能力の増強を図るため、研究開発および設備投資を増強する計画

	2024	2025	2026	2027	2028
SNKS 生産数量 2024=100	100	106	110	141	161
当社連結 海外売上比率	19%	19%	21%	24%	25%
			----->		
			計画		

SIAM NKS社概要

設立：2000年

拠点：タイ国アユタヤ

従業員数：約60名

主な顧客：タイ、ベトナム、マレーシア等に
進出している、プリント基板、自動車
関連、および建材関連のメーカー

5. 2028中期経営計画の主要施策3

金属加工技術を活かした新たなニーズへの取り組み（建材事業）

現在の当社の主力商品 防火通気見切縁

平時：**屋根裏の換気**を促進し、戸建て住宅の
長寿命化に貢献

近隣火災発生時：温度上昇を検知し、内部の
熱発泡材が膨張。30分～60分間、
**屋根裏の温度上昇・延焼を抑止する、
準耐火性能**

* 高度な品質管理により大臣認定を取得
都市部においてトップシェア

他社と共創中の土台防水水切り

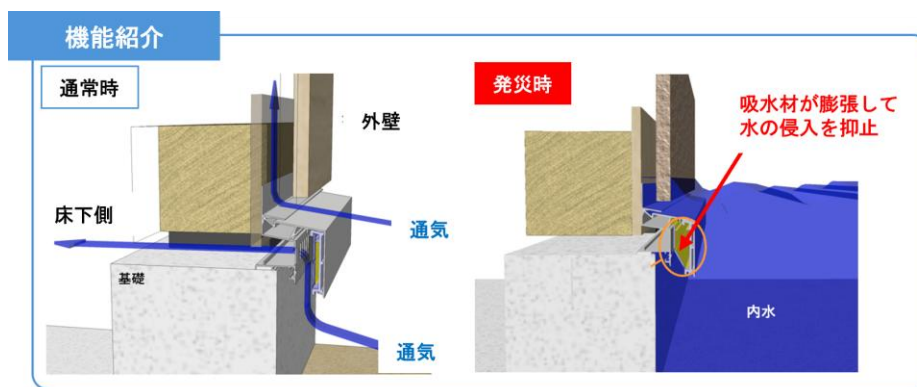
平時：**床下・基礎部の換気**を促進し、
長寿命化に貢献

洪水発生時：水の侵入を検知し、内部の吸水材が膨張
**屋外からの水の侵入を抑止し、
床下・床上浸水被害を最小化**

* 今年度中に上市予定
大手ビルダー様の採用内定



いずれも、高精度で複雑な断面形状を実現する、高度な金属加工技術が鍵



目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

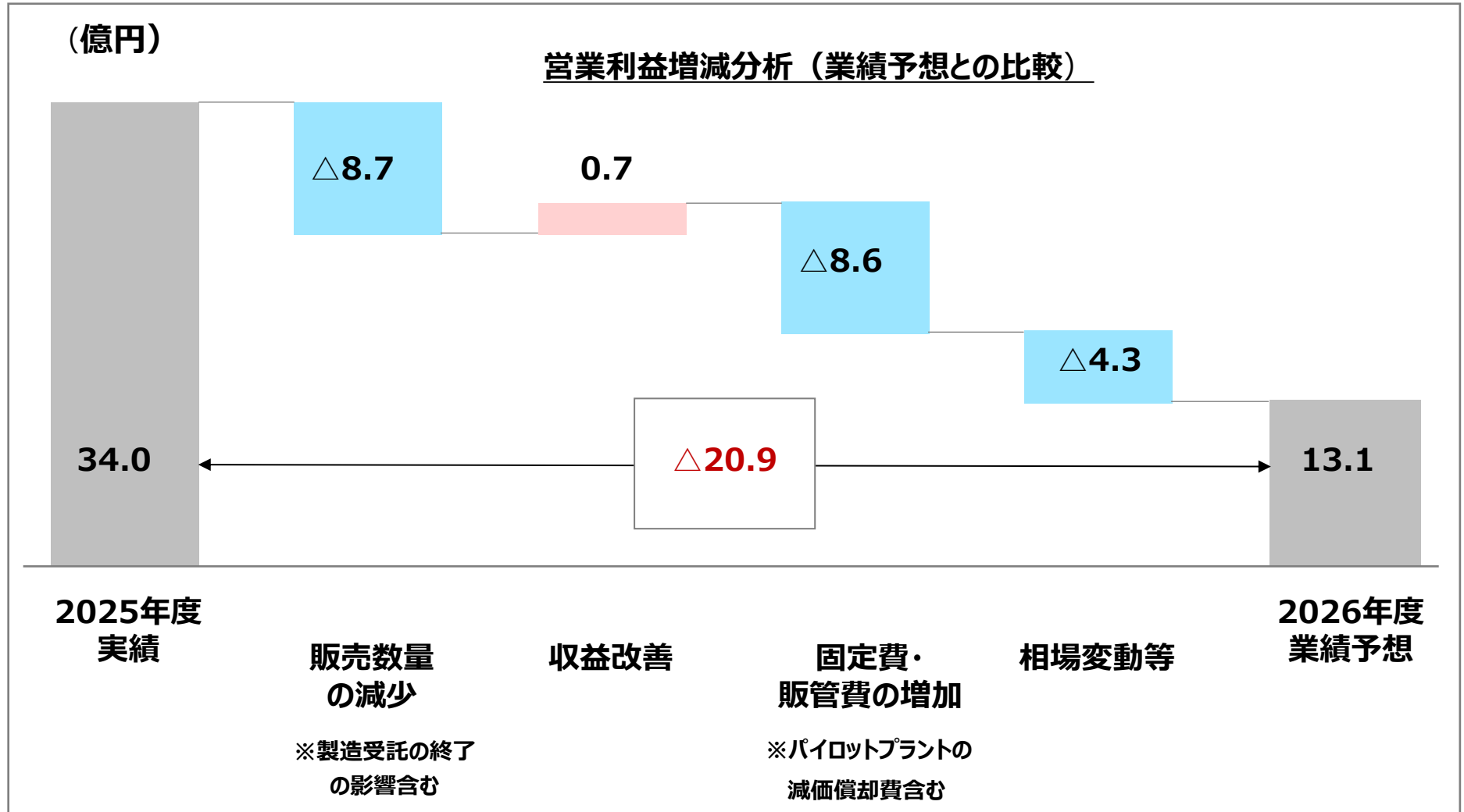
株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

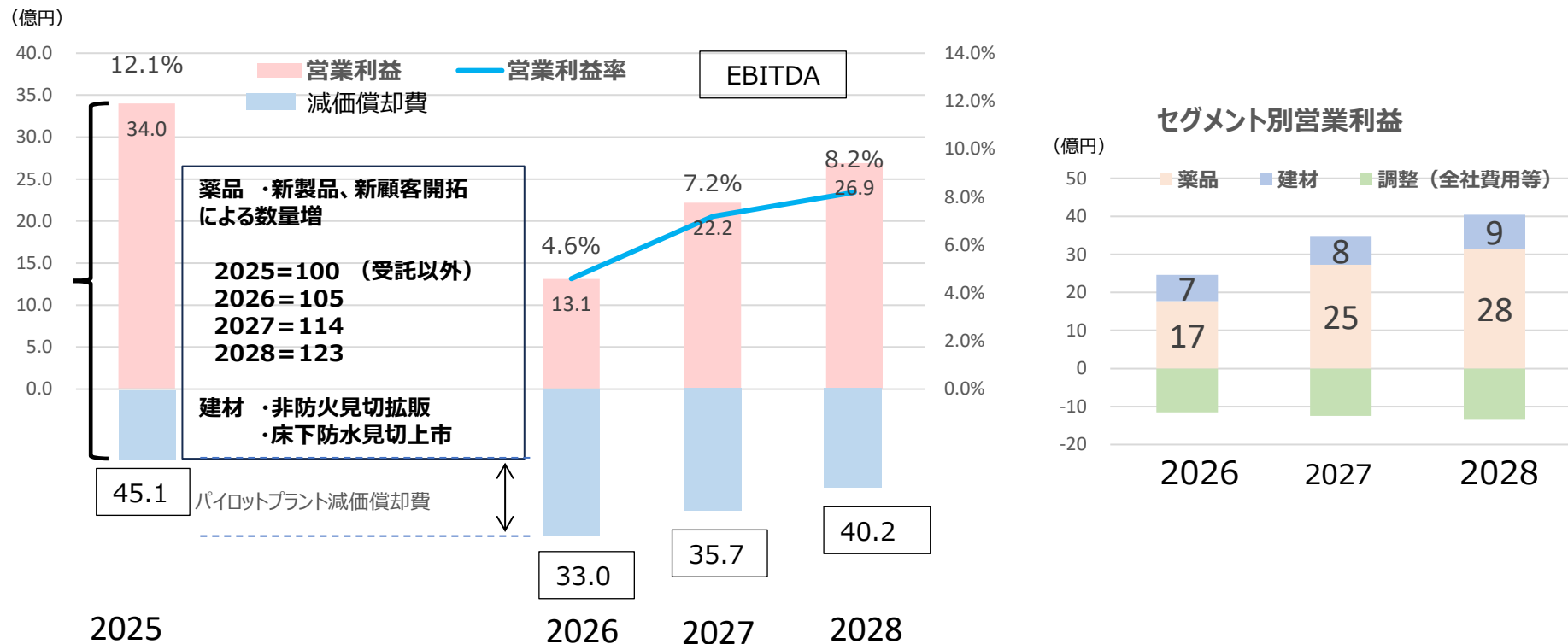
6. 数値目標

2025実績 vs 2026予想 営業利益変動分析



6. 数値目標

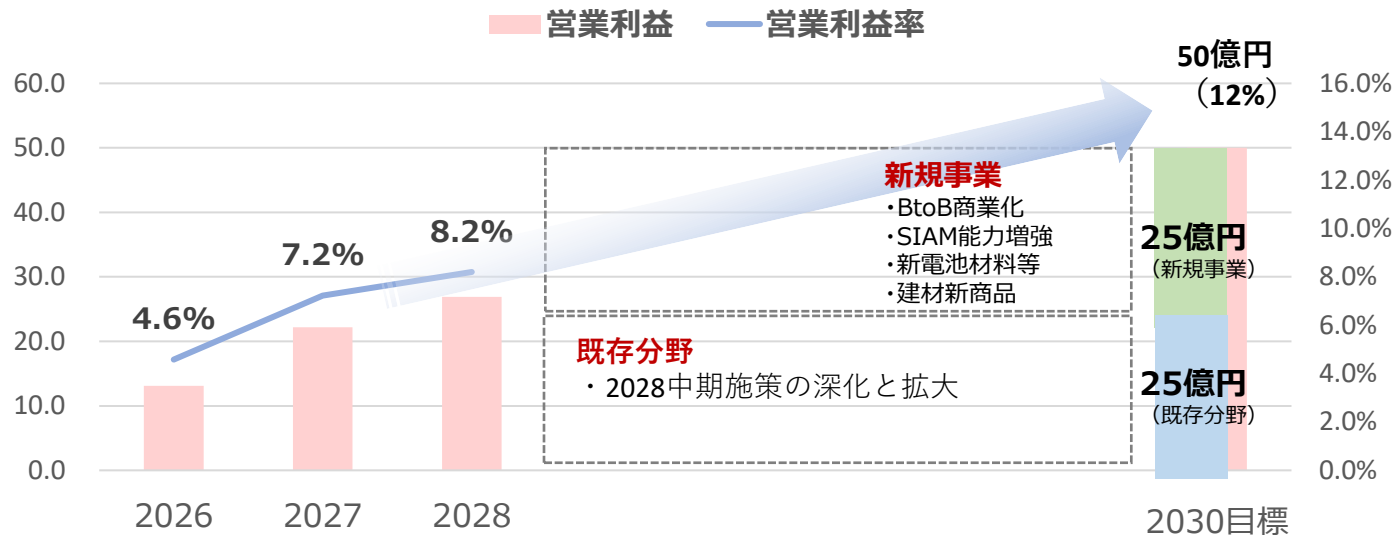
2026-2028中期経営計画 営業利益 EBITDA



- 各部門で利益の積み増しを図っているが、正極材製造受託の終了、パイロットプラントの償却開始により、中期経営計画期間内の会計上の利益は低下。
- キャッシュフロー（簡易EBITDA）は急速に回復。

6. 数値目標

2028中期経営計画 → 2030目標



	2026	2027	2028	2030(目標)
■ 営業利益率	4.6%	7.2%	8.2%	12% 以上
■ ROE	3.0%	4.7%	5.4%	8% "
■ EBITDAマージン	11.5%	11.6%	12.2%	17% "

目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

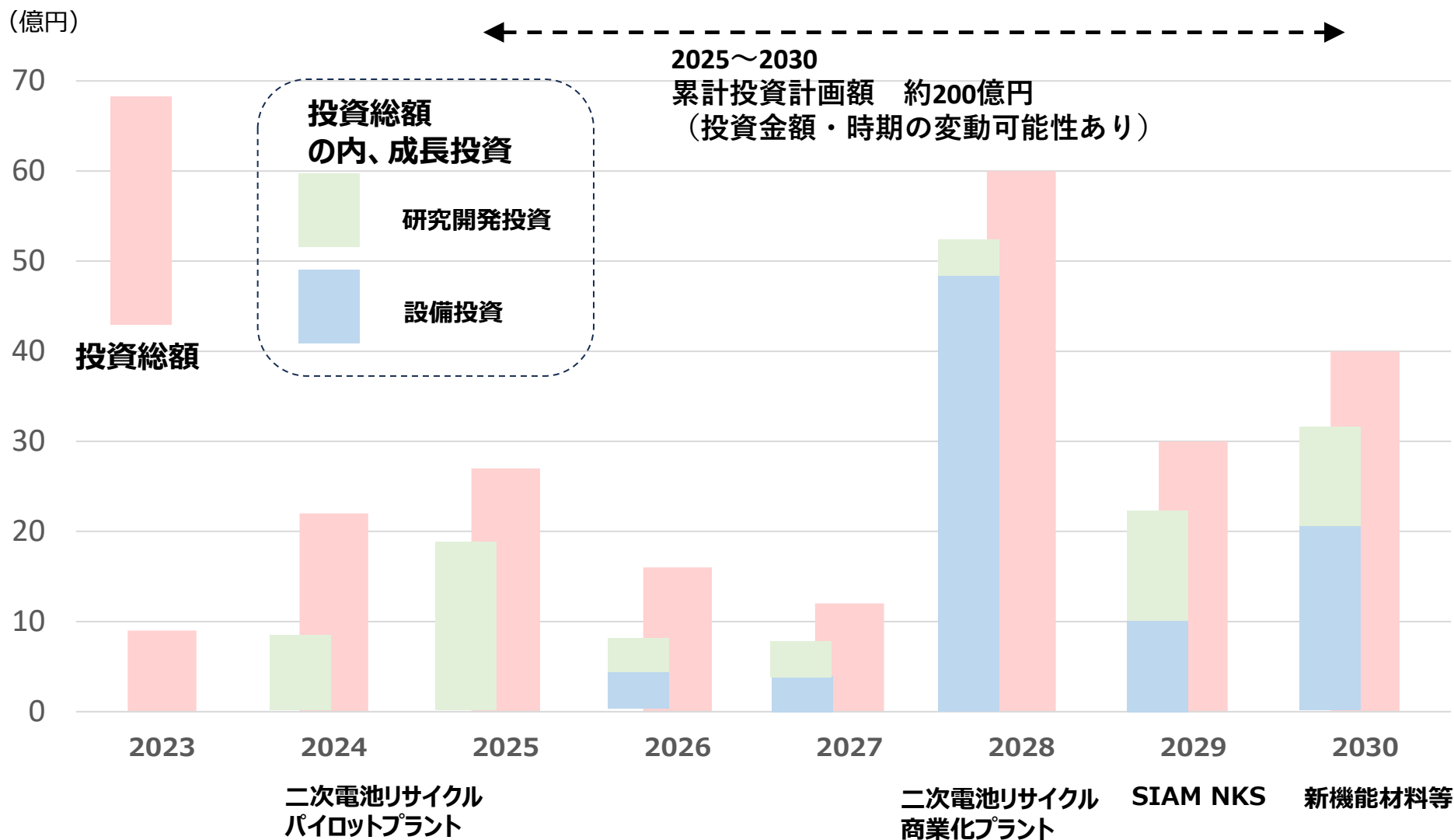
株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

7. 成長投資

各施策を実現するために、積極的な投資を計画



目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

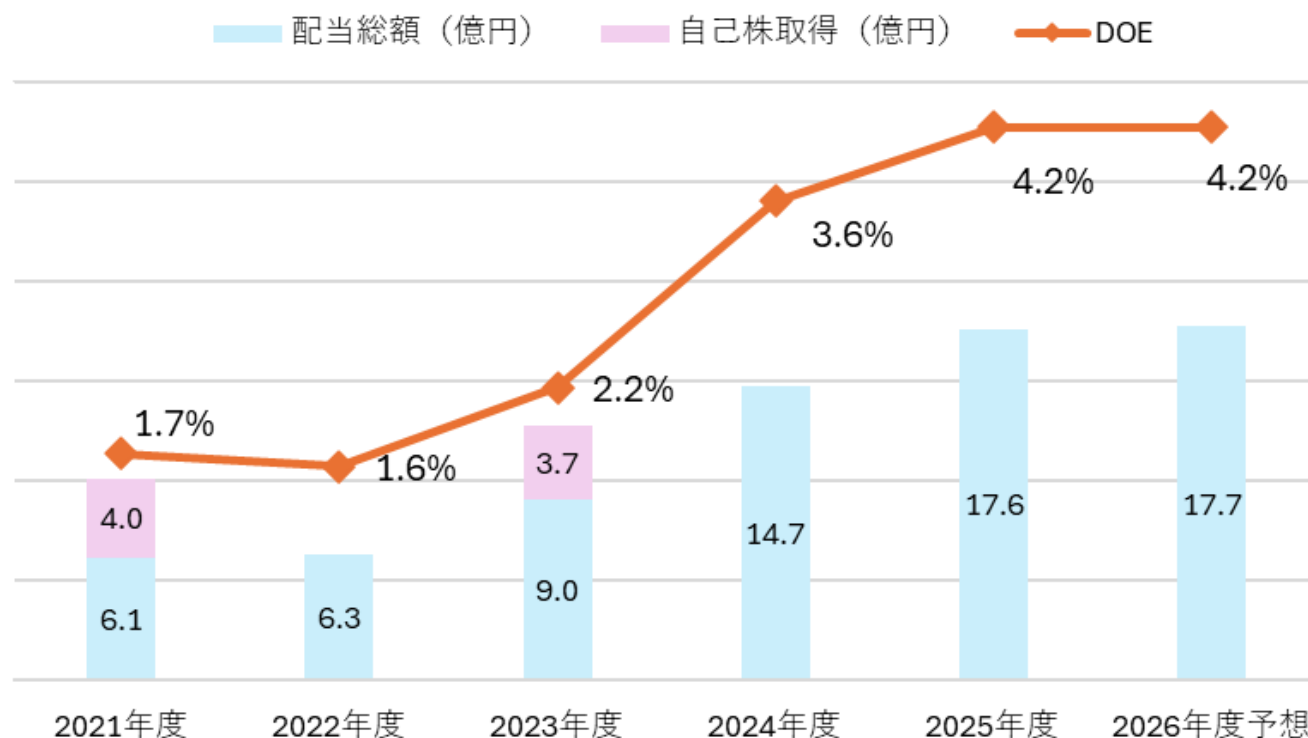
株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

8. 株主還元とキャッシュアロケーション

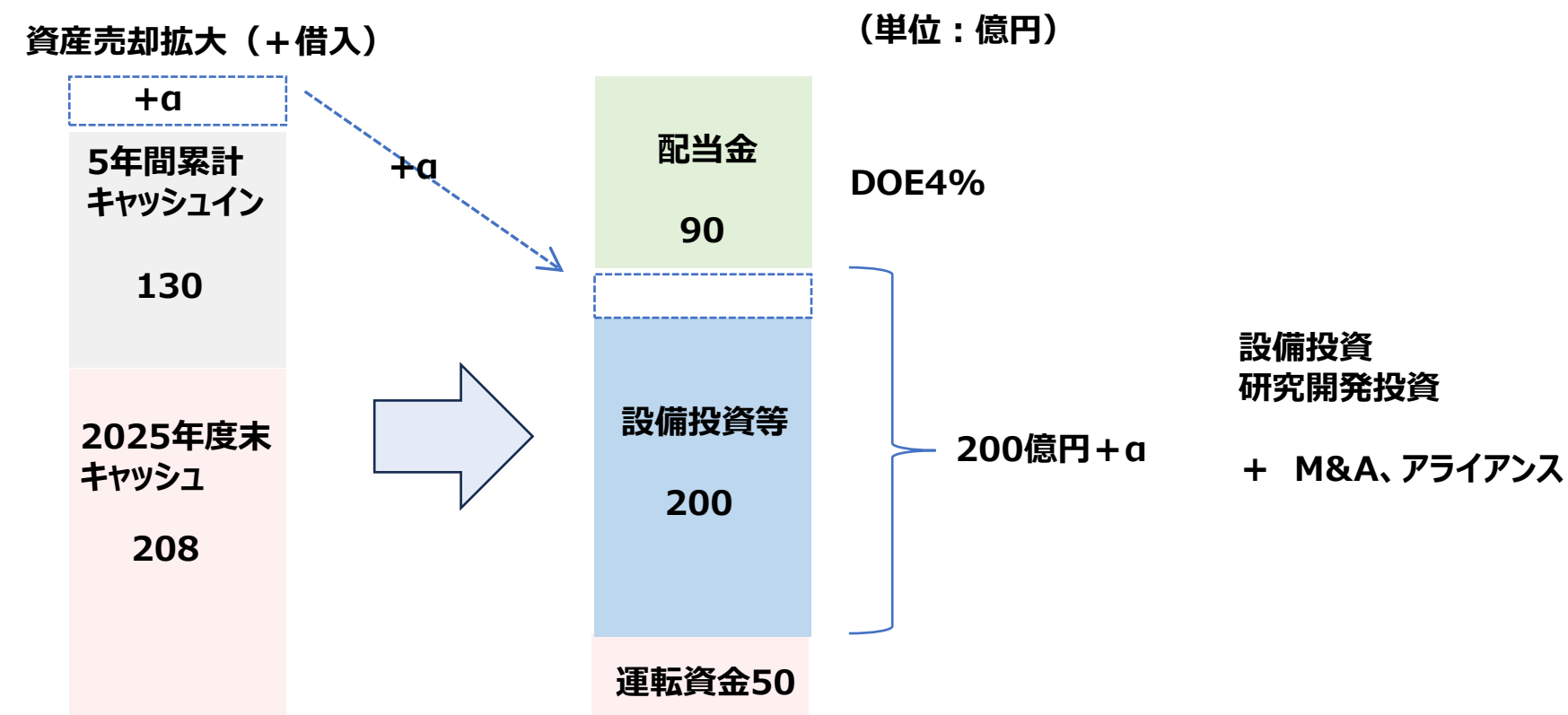
財務健全性を維持しながら、当期連結業績や将来の資金需要等を総合的に勘案し、
株主資本配当率（DOE）4%を目安とし、安定的な配当を継続。
株主優待についても継続。



一株当たり 配当金	31円	32円	46円	75円	90円	90円
--------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

8. 株主還元とキャッシュアロケーション

2026-2030 5年間累計



目次

01

当社の概要、キーハイライト

02

2023-2025中期経営計画の達成状況

03

今後の事業環境予測と当社事業の成長機会、
再生の方向性

04

当社事業の特長、コア技術、
2028中期経営計画基本方針

05

2026 – 2028中期経営計画の主要施策、
2030年目標達成のための育成

06

数値目標

07

成長投資

08

株主還元とキャッシュアロケーション

09

ESG、脱炭素への取り組み

9. ESG、脱炭素への取り組み

当社のサステナビリティ基本方針

新たな価値を創出、提供する事業活動を通じて、環境、社会、経済における中長期課題の解決と持続可能性の実現に貢献し、すべてのステークホルダーとともに成長を確実なものにする。

直近1年間は以下の取り組みに着手、継続実行中

- 2025年6月 SSBJサステナビリティ開示基準（2025年3月公表）に沿って、TCFD枠組みに基づいた分析を開示
SCOPE 1、2 における、CO₂排出量を2030年度に▽60%（2019年度比）とし、2050年カーボンニュートラルとする目標を設定し、省エネ投資等を推進
- 2025年12月 国際的な環境非営利組織CDP(Carbon Disclosure Project)が実施する**CDP2025「気候変動」で「B」リストに選定**
- 2026年3月 **日本化学産業グループ人権方針を策定、公表**



まとめ

中期経営計画の (2023-2025) 達成状況

- 車載用二次電池リサイクル事業 パイロットプラント完成
実証試験開始
- 営業利益34億円（2025年度）

次中期経営計画 (2026-2028) の主要施策

- リサイクル技術をテコに新規事業の創出に注力
- SIAM NKS社を軸に、海外市場への展開を強化
- 設備・研究開発・人財に対し、積極的な投資を継続

数値目標 株主還元方針

- 正極材製造受託の終了、減価償却費増等により、
利益は一時的に減少するものの、
中期最終年度の営業利益は27億円（2028年度）を計画
- 株主還元方針（DOE4%+株主優待）を継続

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。



金属の可能性を追求し、未来を拓く。